

私の1冊

金谷治・訳注「**莊子**」(岩波書店)

荘子は無為自然を説く道教の代表的な思想家。難解な中国古典の訳注書だが、一つ一つの例え話やエピソードの中に「人生の本質をつく言葉がたくさん見つかる」と、本書の魅力を語る。オリンピックホール八王子のエグゼクティブプロデューサーを務める指揮者の西本智美さんに、昨年、知人を介して会った際、愛読書だと聞き手に取った。

特に好きなくだりは「古えの真人は生を悦ぶことを知らず、死を悪むことを知らず」と始まる一節。生死は人間の意志のあずかり知らぬ事象であることを説き、自然の道理に従って人生を送ることの大切さを示唆

49 さん めぐみ 将女「ゆき乃恵」芸妓組合八王子

したものだ。

道教ならではの、悠然としたおらかな思想。「物事に執着したり依存したりせずに生きたい」という、自分が理想とする生き方に通じると感じた。

移動中や毎日通う美容室など

自分の理想 人生の本質



での、ちょっとした空き時間を読書に充てている。芸者衆8人が所属する置き屋の女将として、来店客との如才ないやりとりは必要不可欠。だから「話題の本にはなるべく目を通すようにしています」。感銘を受けた言葉は、線を引いたりノートに書き写したりしている。

もともと思想や哲学に関する

本を好んで読む。「おもてなしの仕事をする者は、自分自身が様々なことを吸収し、豊かな考えを持っていることが大事」と考えているから。茶道や舞踊など日々の稽古は、技術

の向上だけでなく精神鍛錬が目的、ときっぱり言う。

織物の町として栄えた八王子で花開いた芸者文化。そんな八王子で、芸者になって約25年。

「お座敷ではお客さんから様々なことを教わり、稽古では日々新しい芸を習います」。一生勉強できることが、芸者の仕事の魅力だと言う。そして「地元根ざしたアットホームな八王子花柳界を残したい」との思いから、芸者を募集したり、地元の行事に参加したりしてPRに励む。

お座敷に稽古にと多忙な毎日だが「背筋がしゃんと伸びるような一言一句が詰まっている」というこの本は、ページを開く度に人生について思いを巡らす手助けをしてくれる。

(蔵本早織)